

市長年頭記者会見 概要

- 日時：令和6年1月5日（金）午後2時から午後2時40分まで
- 場所：市庁舎3階 庁議室
- 相手方出席者：神奈川新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、東京新聞社、毎日新聞社
共同通信社、テレビ神奈川、タウンニュース社
- 市側出席者：市長桐ヶ谷覚、副市長柏村淳、経営企画部長仁科英子
経営企画部担当部長福本修司、総務部長三ツ森篤史、市民協働部長岩佐正朗
福祉部長石井聡、環境都市部長石井義久、環境都市部担当部長須田透
教育部長佐藤多佳子、消防長行谷英雄
- 陪席者：経営企画部参事米山裕昭、企画課担当課長（広聴広報担当）須田純子
広聴広報係花光美保

- 内容：下記の通り

企画課担当課長（広聴広報担当）定刻になりましたので、逗子市長年頭記者会見を始めます。

市長）皆さん、新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。年頭の所感を伝えさせていただきたいと思ひます。

○最初に、石川県能登半島地震により、被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。また、被災された地域の皆様の安全と1日も早い復興をお祈り申し上げます。

地震は、いつ、我々のところに起こるかもしれないものであり、その時にどう対応すべきか、緊張感を持って、備えていきたいと考えています。

なお、本市では、義援金の募集及び支援対応に関わる県からの要請への準備を進めているところです。

○元旦の午前中は小坪の天照大神社に行っており、市民の方と今年は穏やかな正月ですねとご挨拶をし、コロナも一定の回復し今年こそ元気出していきたいと思いますところでした。その後、あのような地震災害となったところでもあります。日本中が休止状態のところ、ほとんど詳細もわからず、本当に驚く状況でありました。刻々と厳しい状況が報道されておりまして、これからが本当の正念場を迎えるということかと思ひます。

私は、95年の阪神淡路震災時も3週間後に神戸の市内に入ることができました。今回報道されていますような1階部分が完全につぶれた建物もずいぶん見させていただきました。

また、東日本大震災の時は、津波の被害がひどく、道路両脇ががれきの山だったのが印象に残っています。

今回の地震の報道では、建物が斜めに映っていたり、家がひっくり返ったように基礎を上に向けているのを見ました。1980年から宮城沖地震によって耐震基準が変わり、また阪神淡路震災ののち2000年から今の耐震の基準が変わってきました。建物の耐震基準も、一定の成果を上げているというふうに思われます。そうした中で、今回の地震は、また、違う表情を持った地震ということにおそらくなってくるのではないかと私は感じております。

何より、我々としてもできることを支援させていただきながら一日も早い復興をお祈りすることには変わりません。

○今年は、1月2日に、小坪漁港で4年ぶりにみかん投げが行われました。漁港の豊漁と安全を祈願したものでありますが、漁業従事者の安全もさることながら、逗子市全域への安全も祈願しながら参加いたしました。

その他、今月8日には二十歳を祝うずしの集い、13日は消防出初式、14日には市内一周駅伝競走大会が開催する予定になっております。

出初式には祝う意味合いもありますが、このような災害が起こった時の安全に対する備えという意味で開催したいと思っています。ただし、県からの要請があり、災害救助の要請がありましたら、災害救助支援を優先いたします。

○昨年を振り返りますと、年末に、池子2丁目崖崩れ事故についての判決が出ましたが、改めて、安心安全について気を引き締めて取り組むことの重要性を確認いたしました。

○昨年につきましては、財政危機から一定程度回復し、子育て・教育事業に対して、重点的に予算を充てさせていただきました。

小児医療費については、所得制限撤廃、18歳までの年齢引き上げにより、昨年秋時点で利用者は約4300人から約7700人に増え、たいへん多くの方に利用していただいています。

また、子育て支援施策の充実として、昨年の市議会第4回定例会において、国の臨時交付金を活用した逗子市の独自の制度、「低所得の子育て世帯等への応援給付金支給事業」が補正予算として可決され、現在、その支給準備を進めているところです。

○また、昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、イベントや市民活動が大いに盛り上がってきた1年だったと思います。

4年ぶりに逗子海岸花火大会も開催され、久しぶりということもあり、近年では最も多い約11万人の来場がありました。ただ、海水浴場については、来場者数は約22万人で、前年と比べて約88%に減っており、猛暑の影響で、日中の主要な客層である子ども連れのご家

族や学生グループの来場が減ったことが主な要因と考えています。

その中、逗子海岸ウォーターパークは過去最高の利用者数であることをヒントに、子どもや若者が楽しめる質の良いコンテンツを提供するなど、海岸関係事業者と連携していきたいと考えています。

逗子海水浴場は、本市最大の観光資源であり、まちの魅力発信、賑わいづくりに大きく寄与するものでありますので、今後とも、海水浴場全体のマナー向上、風紀の維持にも努めながら、賑わいを創出していきたいと考えます。

海水浴場の他、海岸ではナイトウェーブなどイベントが行われ、また、秋には、逗子市民まつり、スポーツの祭典、逗子アートフェスティバル、スマイルまつり、ふれあいフェスなど、私もほぼすべてに参加させていただきましたが、市民の皆さん、とてもいい笑顔を見せており、まさに、賑わいと楽しさが戻ってきたのを感じました。

○さて、令和6年に重点的に取り込むこととして、事業は多々ありますが、まずは、逗子市は、2024年（令和6年）4月15日に市制70周年を迎えます。

多数応募がありましたキャッチフレーズですが、市民の皆様からの投票で、昨年12月に「海が好き 山が好き 逗子が好き」に決定いたしました。このキャッチフレーズを掲げ、市民の皆様による企画や記念事業など、1年を通じて市制70周年を市民の皆様と楽しんでいきたいと思えます。

また、今年4月21日（日）、逗子文化プラザホールでの記念式典では、市の広報大使である石原良純氏、三浦豪太氏、山田姉妹のトークショーを予定しておりますのでお楽しみいただけるかと思えます。

○そして、今年も、子育てに全力投球していきます。

小児医療費の助成や、教員への支援など引き続き継続していきますが、その他、子どもたちの居場所である、沼間小学校区放課後児童クラブが移設・新築されます。春には、新たな施設に子どもたちが楽しく通っていることと思えます。

○今年、主に高齢者の移動手段としてのGSM（グリーンスローモビリティ）を考えています。

逗子市は、鉄道駅や路線バスなどの地域交通が一定程度充実した状況にはあるものの、一部高台の住宅エリアを中心に、高齢者等の日常の買い物や通院など移動手段の確保が課題となっています。

令和6年度は、こうした方々の新たな移動手段として、ゴルフカートを改良した電動小型低速車「グリーンスローモビリティ」の実証実験の実施に向けて、予算化の準備を進めているところであります。グリーンスローモビリティは、電気を動力としているので環境にも優しく、ある程度の勾配も苦にしない、また、時速20km以下での走行となり、安全

性が高いことも特徴でもあります。長距離の移動には適しませんが、自宅からバス停までなどの近距離移動手段として有効であるものと考えており、グリーンスローモビリティを活用し、外出機会を増やすことで、健康増進にも寄与するものと期待しています。

実証実験を通じて多くの市民に実際にグリーンスローモビリティを体験してもらい、導入の是非を判断していきたいと考えています。一緒に実証実験を行っていく自治会などを調整していきますので、開始する時には、ぜひ、報告をしたいと思います。

○また、2025年3月から、生ごみの分別収集を予定しています。

ごみの減量化・資源化を推進していくうえで、燃やすごみに占める生ごみの減量化・資源化は、ごみ焼却量の大幅な削減による環境負荷の低減に大きく寄与することになります。ごみ処理については、効率的で財政面でも効果があるため、市単独ではなく鎌倉市・葉山町と連携してごみ処理を進めています。その一つとして、生ごみ資源化処理施設を葉山町に整備し、生ごみの共同処理を予定しています。

市民生活に多大な影響を及ぼす事業でありますので、生ごみ分別の詳細な説明会を、3月以降、市役所、各地域で、できるだけ多く開催し、市民の方へ周知をしていきます。

平成27年のごみの有料化以降、市民の皆様による分別の徹底そして継続されていますが、今年、生ごみの分別という新たなステージに向けて、市民の方の協力とご理解を得ながら、一層のごみの減量に取り組んでいきます。

○市内経済についてですが、コロナ禍が明け、人の動きが戻ってきた恩恵が少しずつ出始めている一方、原油・物価の高騰は著しく、依然として市内中小事業者の皆さんは苦労されていると聞いています。市内経済の活性化のため、商店街等への消費喚起事業費補助金の交付を行い、景気のコト入れをしていきたいと考えています。

市内では、この補助金を活用し、2月9日（金）から18日（日）まで、実行委員会による「ずし呑み・ずし食べ」が行われます。今年は、デジタルチケットの導入など、手続きを簡易にすることで、多くの店舗の参加と、市内内外の利用者の増加を目指していると聞いています。また、市内全域をイベント会場にすることで、消費の喚起と市内経済の活性化につながることを期待しています。

その他、補助金活用事業として、市内全商店街で「スピードくじで春をよべ」というイベントも行われます。これを機に市内のお店を利用いただき、皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。

また、昨年、漁業と観光との組み合わせた実証実験として漁師タクシーなどを行いましたので、それをもとに、小坪漁港の新たな活用と活性化、事業者の所得の向上を図る海業の推進にも取り組んでいきます。

○最後に、昨年、逗子市で多くの関心を引いたのが、小坪2丁目県有地、地元の皆様から

は「はげ山」と呼ばれている土地と思います。昨年3月の神奈川県からの民間売却の話が事の始まりでした。

その後、地域住民から8,000筆を超える署名（最終的には10,211筆）が県に寄せられ、市政相談も受けましたが、地域住民の要望を踏まえつつ、市全体の財産としての活用を模索したいと考え、県に対して一定期間の猶予を申し入れたところ、県から令和6年3月末までの期限を示されたところです。

小坪2丁目県有地は、もともと40年前に市の要望を受けて神奈川県が県営住宅用地として取得した土地で、その後、住民の反対運動を受けて住宅建設は頓挫した訳ですが、市としても何とかここで決着をつけるべきと考えたところでもあります。

現在の構想としましては、2ヘクタールと広大な敷地でありますから、その地域のためだけでなく、広く市民全体で利用できる近隣公園とし、災害などの緊急時には、いっとき避難場所などとして柔軟に使用できる土地としての活用を考えています。

公園内の整備内容としては、身体障害者用の駐車場は整備しますが、その他は、園路、トイレなどの必要最小限の設備のみとし、建物、遊具の設置などは考えておりません。

今後、市民や関係機関と丁寧に協議しながら、着実に取得に向けて取り組んでいきたいと考えています。

○逗子市は、今年も、子育て・教育など子育て支援に重点を置きながら、ご高齢の皆様にも安心して暮らせる「選ばれるまち」をめざしていきます。

課題はいくつもあります。今年「実行する」「行動する」「行う」の漢字1文字「行（こう）」を掲げて、明るく、希望をお示しできる1年を、「今年はやるぞ」という気持ちで進めていきたいと考えています。

○もう一つご報告があります。

昨日、メジャーリーグで活躍しております大谷選手から寄贈のグローブが届きました。逗子市には、小学校5校ありますので、1校につき3個、全部で15個のグローブを寄贈していただいています。本日、市内小学校に配付し、各学校でお披露目する予定になっております。

これを機に、子どもたちには、野球をはじめ、いろんなスポーツに親しみ、豊かな学校生活を送ってもらいたいと思います。

以上です。

企画課担当課長（広聴広報担当） それでは、質疑をいただきたいと思います。まずは、幹事社から質疑をお願いします。

記者) 被災地支援ですが、逗子市では、人的に、消防職員など人を派遣する準備はされていますか。

市長) 神奈川県が中心に、地域割りをしていますので、要請が入りしだい協力していきます。勝手に行っても調整がつかないだろうと思いますので、そういう意味では現在待ちの状態です。

記者) グリーンスローモビリティは、いつ頃実証実験を行う予定ですか。期間、規模感等がありましたらお伺いしたい。

市長) 当面、私の考えでは、リースを考えています。9月を目標にしています。自治会等に希望を募っていますが、現在、一つの自治会から手上げがありそうと聞いています。

記者) 前回記者会見の時に話のありました、ドワンゴ学園N大学の件ですが、その後進展を教えてください。

経営企画部担当部長) 設置手続きについての情報はありませんが、文科省の認可スケジュールですと、現在、申請を受けて審査段階であり、8月頃認可がおりるのではと思います。また、公表できるものがありましたら、ご案内させていただきます。

記者) 子育て・教育、高齢者対策をあげていましたが、何か具体的なものがあれば教えてください。

市長) 教育関係で言いますと、不登校の子ども居場所を試験的に1校で実施しました。今年取り組みについて詳しくは担当の部長から説明します。

教育部長) 補正予算で1校につきまして、不登校のお子さんが校内での居場所を作り、専任の指導員を付けて運用が始まっているところです。他の学校でも予算がない中でそういう取り組みをしていますが、市としてもそういった人的支援を進めていきたいと考えており、来年度は順次拡大していきたいと考えています。

市長) 通常の教室に戻れるようになったとか、表情も明るく、行動が活発になってきたとか、良い事例が出てきましたので、来年度は、8校のうちの半分、4校にその体制をしっかりとつくり、そこでもう一度検証していきたいと考えます。そういったことを含め、教育活動に力は注いでいきたいと考えています。

企画課担当課長（広聴広報担当） それでは、以上で本日の記者会見を終了します。
どうもありがとうございました。